

地域の守り手「建設業」の担い手の確保に向けた取組み

中尾 進¹・久保 大地²

¹兵庫県中播磨県民センター 姫路港管理事務所 港湾整備第1課 (〒672-8063姫路市飾磨区須加297)

²兵庫県但馬県民局 豊岡土木事務所 技術専門員 (〒668-0025豊岡市幸町7-11)

地域の建設業が現在直面している大きな問題として就業者の高齢化の進行と担い手の減少があり、特に本県但馬地域では著しく進行、今後、「建設業」を持続可能とするためには新しい担い手を確保し若返りを進める必要がある。本県では建設業協会と共同で対象を子供、高校生、一般の3つの階層に分けそれぞれに対策を講じることで、課題解決に向けた包括的なアプローチを行っており、結果、土木に関する正確な情報を伝えイメージを変えることに成功し、地元総合高校1年生の土木コースへの進学率が大幅に増加、縁故採用しか出来なかった会社に一般応募があり採用に至るなど一定の効果が見られた。本論では、その取組内容を紹介するとともに今後の方向性について述べる。

キーワード 担い手確保、建設業協会、出前講座

1. はじめに

地域の建設業は、平時は社会基盤整備やそのメンテナンスを行う一方、災害時の緊急対応や除雪など地域の守り手としてエッセンシャルワーカー的な存在となり県民の安心・安全と社会経済活動を支えている。

このように地域に欠かすことが出来ない「建設業」であるが、現在直面している大きな問題として就業者の高齢化の進行と担い手の減少がある。特に本県但馬地域では著しく進行しており、今後、持続可能とするためには新しい担い手を確保し、「建設業」の若返りを進める必要がある。

これは建設業者だけの問題として放置するのではなく、県も地域業界団体と一緒に知恵を絞り協力して取り組んでいく課題であると認識している。

そこで本論では、建設業協会と共同で実施している「建設業」の担い手の確保に向けた取組みを紹介するとともに、その結果から担い手の確保に向けた方向性について述べる。

2. 建設業担い手確保に向けた包括的アプローチ

まず、対象を子供、高校生、一般の3つの階層に分け、それぞれに対策を講じることで、課題解決に向けた包括的なアプローチを行った。

- 高校生向け** ⇒ 兵庫県立豊岡総合高校へ土木を選択してもらうための出前講座実施
- 子供向け** ⇒ 各種出前講座の実施で土木のイメージアップ!
- 一般向け** ⇒ 動画作成、YouTube公開等で、広くPR

3. 取組内容

(1) 高校生向け出前講座

a) 目的

土木というと、スコップ、つるはし、力仕事というイメージが残っており、将来を担う豊岡総合高校環境建設工学科1年生を対象に正確に理解して頂くため、2022年度(令和4年度)から出前講座「聞いて・見て・体験! 地図に残る仕事」を実施した。

受講対象とした1年生は10月下旬に土木類型か建築類型を選択するため、それまでに開催している。

b)概要 (2023年度分(令和5年度分))

対象 1年生 36名

(男子18名・女子18名)

プログラム (9:15~16:00)

- ・イントロ「土木へのいざない」
- ・講義「社会生活に欠かせない社会基盤」
- ・建設業PR動画放映
- ・建設業協会員との質疑「仕事のやりがい」
- ・城崎大橋現場見学・ICT建設機械試乗・ドローン操作等

写真-1 質疑「仕事のやりがい」



写真-2 城崎大橋概要説明



写真-3 城崎大橋現場見学



写真-4 ICT建設機械試乗



工夫した点

- ・女子生徒の比率が比較的高いことから講師も女性を多く登用

【女性講師の割合】

県→4人中、3人(75%)。

建設業協会→4人中、2人(50%)。

- ・質疑「仕事のやりがい」では生徒と双方向のやりとりで丁寧に回答
- ・現場では見学だけでなく重機やドローンの試乗・操作を実体験

(2) 子供向け出前講座

a) 目的

小学生に土木を身近に感じ理解を深めて頂くため、

出前講座①「私たちの冬の暮らしを守る除雪」として雪が多い美方郡で除雪作業の苦労や工夫、除雪車の試乗体験、出前講座②「城崎大橋見学会」として施工中の今しか体験できない橋梁上部工内部の探索等を実施している。

b) 出前講座①の概要

場所 毎年、香美町、新温泉町ごとに
1カ所ずつ開催(2018年(平成30年～))

プログラム 講義「道路除雪のお話」
除雪車試乗体験

写真-5 除雪車試乗体験【講座①】



工夫した点 座学に加え、除雪車を小学校に持ち込み
直接触れる機会を創出

c) 出前講座②の概要

日時 2023年(令和5年)10月31日(火)
10:40～11:45【城崎小学校】

プログラム 上部工箱桁橋面・内部見学、
記念パネル設置

工夫した点 児童の心に残るよう箱桁内部に
記念パネルを設置

写真-6 城崎大橋上部工橋面見学【講座②】



写真-7 見学・パネル設置【講座②】



(3) 一般向け建設業PR動画

a) 目的

3Kイメージを払拭し、建設業が若者・女性の就職の選択肢に加えてもらえるようにPR動画「但馬の若手技術者にワークライフバランスを聞いてみた」を作成した。

b) 概要

事業名 但馬地域への入職促進に向けたPR動画作成事業

発注者 豊岡土木事務所

受託者 芸術文化観光専門職大学

工期 2021年(令和3年)12月28日～
2022年(令和4年)3月25日

事業費 1,999千円

工夫した点

- ・画像編集のプロフェッショナルの地元の専門職大学に作成を依頼
- ・様々な場面で動画を活用

⇒YouTube (ひょうごチャンネル) で公開。高校出前講座、三宮センター街大型スクリーン、合同就職説明会「セレクションたじま 2022」建設会社ブースで放映

⇒兵庫労働局 (ハローワーク) のサイトなどに情報を掲載

写真-8 ひょうごチャンネル【建設業PR動画】



クじゃない」「楽しそう」

大半の生徒は「土木のイメージは変わった」「興味は増えた」、講義・質疑を「勉強になった」、出前講座の体験を通じて全員が「進路を選ぶ際の参考になった」と回答

⇒土木に関する正確な情報を伝えることに成功
次年度以降の継続開催を希望する声が圧倒的

⇒出前講座の意図が生徒に浸透

b) 現場見学、ICT体験

高校世代には「重機の操作」、「ドローン操作」、「城崎大橋」の順で人気

c) 講師 (県・建設業協会) の感想

「自らも勉強になった」、「学生とふれ合えて若い頃を思い出し楽しい気持ちになった」、「自分の仕事を理解してくれた」、「貴重な経験を積んだ」などの意見

⇒技術者スキルと意識の向上に寄与

4. 各取組みの実施結果と考察

(1) 高校出前講座

生徒あての事後アンケートなどから実施結果をまとめ考察した。

a) 生徒の土木のイメージの変化

<開催前>

「力仕事ばかり」「怖い人が働いている」「きつい仕事」「楽しくなさそう」「ブラック」「難しそう」

<開催後>

「力仕事だけじゃない」「女の人でも活躍できる」「優しい人が多い」「やりがいがある仕事」「ブラッ

d) 土木類型への進路選択をした生徒数

2022年(令和4年)4月の進路希望調査時 **5名**

⇒進路選択結果 18名 (全生徒数 40名)

【内訳: 男子生徒 13名・女子生徒 5名】

2023年(令和5年)4月の進路希望調査時 **2名**

⇒進路選択結果 22名 (全生徒数 36名)

【内訳: 男子生徒 11名・女子生徒 11名】

e) 地元建設会社へ就職した生徒数

近年は就職者がなかったが、2023(令和5)年度は卒業生のうち3名が地元の建設会社へ就職

(2) 子供向け出前講座

除雪出前講座の参加児童から届いた手紙で、

・地域の人のために頑張ってくれている。感謝して通学したい

・大きい除雪車を運転するのが凄い、除雪はカッコイイ!と思った

・こういう方々がいて香美町を守ってくれているんだと思った

城崎大橋出前講座の参加児童の感想は、

・橋の中は洞窟みたいで探検している気分になった。完成を楽しみにしている

⇒除雪作業や現場に対して好意的な気持ちの芽生えとともに土木への理解が深化

(3) 一般向け建設業PR動画

高校出前講座での放映結果などからまとめた。

・事後アンケートにて全員が「印象に残った」と回答

・ひょうごチャンネルで動画が4,400回再生以上

⇒縁故採用しか出来なかった会社に複数人の一般応募あり

5. 担い手の確保に向けた方向性

各取り組みの実施後は生徒や児童の気持ちが土木に対して好意的に変化した。今後も能動的に交流を持つことが、新しい担い手の確保に向けての最善策である。

高校生向け ⇒ 今後も総合高校での講座を継続。普通高校へもアプローチを検討

子供向け ⇒ 機会を捉えて出前講座でPR

一般向け ⇒ 他省庁とのタイアップなど検討

6. おわりに

出前講座を始めてから豊岡総合高校では環境建設工学科1年生の土木類型への進学率が大幅に増加し、卒業生の一定数が地元の建設会社へ就職した。

また、副次的な効果も現れ同高校では、今年度卒業予定者から公務員土木職員採用試験の受験希望者が増えたと聞いている。

本年度の豊岡総合高校の出前講座は実施（実施日：7月5日）を終えており、講義にはハローワークも加わり一層充実した内容で開催されている。

継続してこの取り組みを進めることは「建設業」の担い手を確保することに直結すると実感しており、効果を拡大するためにも、今後は各建設業協会や国、多くの自治体が担い手の確保に向けた取り組みを推進すべきであると考えている。

将来を担う若者が地域の「建設業」に興味をもち、そして地域に入り、「建設業」の担い手として活躍することを信じて本論のくくりとしたい。

参考：ひょうごチャンネル「但馬の若手技術者にワークライフバランスを聞いてみた」

<HPアドレス>

<https://hyogo-ch.jp/video/3970/>

注釈：本論文に記載の取組内容等は兵庫県但馬県民局豊岡土木事務所技術専門員にてとりまとめ。執筆者のうち、中尾進は上記の所属から本年4月の異動をもって現所属となっている。